



# 上川井だより

## 7月号

平成30年6月29日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山田 アイ子

## 「言葉を大切に」

校長 山田 アイ子

「言葉を大切に」…これは国際平和スピーチコンテストに、本校代表として参加した向山さんのスピーチのタイトルです。「悲惨ないじめをなくすための第一歩は、人を傷つける言葉を使わない。言葉を大切に使いましょう」というのがスピーチの主旨です。向山さんのスピーチを聞いて、私も言葉について考えてみました。

「目は口ほどに物を言う」ということわざがあります。人間が喜怒哀楽の感情を、最も顕著に表すのが目だということから、何も語らなくても目を見れば相手の感情が分かる、また、言葉で偽りごまかしても、目を見ればその真偽がわかるという意味でしょうか。「目も口ほどに物を言う」という言い方もあると聞いたことがあります。確かに相手の目を見て、相手の気持ちを察することは、人として大切なことだと思います。

最近、あるテレビの「最近の若者会話で使われる言葉」という放送を、とても興味深く見ました。「まじ」「まんじ」「フロリダ」…など聞いたことのない言葉や略語が多く、とても日本語には聞こえないような会話でした。「フロリダ」とは、風呂に入るから会話から離脱することを言うのだそうです。その中でも、特に気になった言葉が「まんじ」と「やばい」です。本来の「やばい」は、まずいとか困ったなどの意味ですが、若い人の使う「やばい」は先ほどの意味もありますが、何かを食べて「やばい」…つまり美味しいという意味に使ったり、感動する話や映画を見て「まじ やばい」とか「まじ まんじ」などと使う場合もあり「本当に感動した」という意味に使ったりするのだそうです。つまり、その場の雰囲気、場面等で意味が異なり、いわゆる「ノリ」で使い分けるようです。

時代が変われば、新しい言葉が生まれ、使われなくなる言葉も出てくるのは当然のことだと思いますが、大切なことは、言葉によるコミュニケーションを忘れないことだと思います。

しかし、言葉によるコミュニケーションは大切であると同時に、とても難しいことです。自分の気持ち、分かってほしいことはたくさんあるけれど、それをどんな言葉で表現したらよいか分からず言葉が出なくなってしまう子がいます。子ども同士で喧嘩がおき、双方の話を聞くけれど、なかなか状況が分からないこともあります。一つ一つ、丁寧に、その時は…だれが…なんて言ったの…と聞いていかないと状況が見えないのです。さらに、そのときの自分の気持ちを言葉で表現することは難しく、ましてや、相手の気持ちを考え、言葉で表現することは至難のわざのようです。

人は言葉で人に傷つけられることがあります。誰かの言葉で救われることもあります。あのときの友達の言葉が、自分を支えてくれた、助けられたと思うこともあるのではないのでしょうか。

上手な話し方をしなくても、丁寧な言葉ではなくても、相手に気持ちが伝わることもあります。きれいな言葉を並べても、気持ちが伝わらないこともあります。

言葉は難しい…でも、人の気持ちが分かる、分かってあげられる、そして、温かい言葉をかけてあげられる人になりたいと思います。言葉によるコミュニケーションを大切にして、温かい人間関係をつくれる上川井の子どもたちを育てていきたいと思います。

「言葉を大切に」…向山さんが素敵なメッセージをくれました。